

平成 28 年度弘前大学グローバル人材育成事業

学生市民等協働プログラム実施報告書

「弘前×ボルドー」プロジェクト：学生企業人協働シティ・プロモーション事業



弘前大学人文社会科学部：「弘前×フランス」プロジェクト

平成 28 年度 学生市民協働プログラム実施計画

【構成メンバー】

- ・ チームリーダー（人文社会科学部）氏名 熊野 真規子（准教授）
- ・ 指導教員（人文社会科学部）氏名 小野寺 進（准教授）
- ・ 参加学生 人文学部欧米文化コース 2 年 15H1089 野呂 愛華
人文学部欧米文化コース 2 年 15H1106 山内 まどか
人文学部欧米文化コース 2 年 15H1109 山口 風太
人文学部国際社会コース 2 年 15H2010 上野 由加里
- ・ 企業人 有限会社「弘前こぎん研究所」専務取締役 成田弘美
- ・ 事務職員 社会連携課 星 晃治

【実施期間】

平成 28 年 10 月 20 日～平成 28 年 10 月 28 日

1. 教育目標

- (1)各自が独自の視点から地域を知り、それを世界とつなぐ力の育成【事前準備＋現地プログラム】
- (2)世界を知り、それを地域とつなぐ力の育成【現地プログラム＋帰国後の報告会、「弘前×フランス」プロジェクトをつうじた地域へ還元、発信、提案】
- (3)社会人（企業人）との協働経験を通じて、実社会で通用する協働力の育成
- (4)外国語学習取り組みへのモチベーション向上
- (5)プロジェクト型地域志向科目「地域と世界をつなぐ」と海外 PBL プログラムを組み合わせたグローバル人材教育の検証

◎本プログラムは、学生海外 PBL プログラムの助成を受けて 2015 年 2 月に実施した「弘前×ボルドー」プロジェクトでの弘前ツーリズムおよび弘前市物産の海外広報活動、加えて、その省察に基づいて 2015 年 10 月に学部の助成を受けて実施した「弘前×ボルドー」プロジェクトでの広報活動とアンケート分析に基づいて、計画・実施するものである。

社会人（企業人）との協働プログラムになるので、これまで実施した学生海外 PBL プログラムより丁寧な発信（フランス語の詳細説明）と、より丁寧な調査を行い、関係者への具体的な提言をめざすよう学生の指導・助言にあたりたい。

2. 期待される地元への成果

①弘前市物産品の海外展開への提言

市や商工会が実践するように、海外広報に際してまず首都（フランスであればパリ）に出て行くのはごく自然な展開である。しかし、ボルドーの学生海外 PBL の際、Maison du Japon の進藤代表は、弘前市も出品を続けているパリ郊外で開催される国際見本市の Maison et Objets について、「日本はマーケティングが不十分もしくはマーケティングが不在」というプロとしての指摘をしておられる。フランス文化に長年関わってきた申請者の立場から見てもブランディングの方向性が誤っている可能性があるのではないかと感じたり、また、市がヨーロッパへの展開を見据えてパリ（フランスの場合）での発信にこだわることで、日本文化の受容度や関心の高い地域での発信の機会を逃しているのではないかとも思われる。これらの課題を調査によって確かめ、地域に還元したい。

マーケティングやブランディングの方向性については、海外各地でワークショップを行っている「弘前こぎん研究所」の成田氏のワークショップの参画によって、現地の人々の、より深い興味のありかを探ることや、伝承工芸品の方向性についても（伝統的なものと現代風にアレンジしたものどちらが、どのような世代に好まれるかなど）を調査することで、他の工芸品についての嗜好の傾向についても仮説をたてることを期待したい。

②弘前へのインバウンド、海外広報の新しい展開（戦略）

フランス国内では、毎年新しく日本語・日本文化を専攻する学生が 2000 名以上生まれており、パリのほかにリヨン、ボルドー、トゥールーズ、ストラスブールがその中心で、インバウンドにあたってターゲットになりうるのではないかと考える。弘大の協定校であるボルドー・モンテーニュ大学は、1 年生だけで 200～300 名（全国の新規専攻生の 10～15%に相当）が日本語・日本文化を専攻しており、博士課程までを有する 5 大学の中に数えられている。つまり、日本語・日本文化を専門的に学んでいる学生だけでも常時 500 名程度が在籍する街がボルドーであり、日本への関心を持つ人口が多い地域であることは明白である。

このような地域は各国にあり、そのような地域でのインバウンド・海外広報はアピール度が高く、SNS が普及している現在、地方からのネットワークでの拡散も期待してよいのではないだろうか（ボルドー・モンテーニュ大学は日本の大学 10 校ほどと協定を結んでおり、毎年 30 人ほどの学生を日本留学へ送り出しているが、これは非常に稀なことで、協定校をあまり持たないパリの大学よりボルドーが強みとしている点である）。

パリをはじめ主要国の首都圏では、競合する他の海外広報も膨大に発信されていることも忘れてはならならず、柔軟な発想力を身につけておきたい。

◎2015年10月にボルドーで実施したプロジェクトでは、現地の広報協力や津軽三味線の誘客もあったおかげで一日限りの地下会場でのイベントに200名～300名の来場者を迎え、ボルドーでの日本文化への関心の高さを知ることができた。また、大部分の人が、弘前のみならず北日本の情報そのものに初めて接したという。日本旅行のリピーターは、交通手段、オススメの時期の質問など、具体的興味を示す点が印象に残る。ボルドーは、福岡と姉妹都市であること、東京以北の広報はおそらく他の地方にくらべてアピールがない、もしくは少ないことが予想された。また、津軽三味線のライブについては、ヨーロッパ展開の可能性も感じさせる反応を得、その事も後押しになり、当該学生は9月～ボルドーに留学予定で、留学期間中にヨーロッパに可能な限り津軽三味線を広めて来たいとのこと。現地のイベントも、当該学生とも合流し、協働して実施する計画である。

3. スケジュール

10月20日	青森空港発(東京・羽田空港→パリ・シャルルドゴール空港) シャルルドゴール空港駅→ボルドー・サンジャン駅(TGV) 深夜着
10月21日	会場設営@Maison du Japon
10月22日	弘前シティプロモーションイベント@Maison du Japon
10月23日	①Maison du Japonのショップ内視察および
-26日	代表・進藤武則氏との会談 ②Maison du Japonの日本語学習者との交流 ボルドー・モンテーニュ大学日本語専攻学生との交流 ③Citédu Vin 視察、フィールドワーク
10月27日	ボルドー空港→パリ・シャルルドゴール空港(トランジット)
10月28日	→東京・羽田空港→青森空港着

平成 28 年度弘前大学グローバル人材育成事業 学生市民等協働プログラム
「弘前×ボルドー」プロジェクト：学生企業人協働シティ・プロモーション事業
実施報告

人文社会科学部 准教授
熊野真規子

事業の目的：複眼的・多元的思考や発想へと結びつく多様性の認識、多様性の受容（異文化に対して胸を開いていく感性の育成）、ツールとしての語学ではなく相手をより深く知りたいという気持ちに支えられた現地言語への学習意欲、地域を知り、地域を発信し、受け取ったものを地域に還元するという世界を地域へつなぐ気持ちを育成する。

事業の成果：

10月22日：弘前の地域資源発信イベント@MAISON DU JAPON

10 時頃から 19 時過ぎまで展示会（市の物産品、観光関連ポスター、冊子および映像展示）と津軽こぎん刺しワークショップを行い、来場者に質問紙によるアンケートおよび弘前の四季、文化、工芸の嗜好についての投票型調査を実施。ヴァカンス時期と重なり来場者数は昨年度の半分程度だったが、丁寧な対応と交流ができ、来場者の滞在時間が長く、昨年度以上にインバウンドに手応えが感じられた。

10月23日～26日：来年度「弘前×フランス」週間の展示および発行紙に向けてのボルドー市街フィールドワーク、Cité du Vin 視察（6 月開館したての注目の新コンセプトワイン文化ミュージアム）、アルカション取材（交通利便性、観光政策等）、並行してボルドー・モンテーニュ大学日本語サークル学生および MAISON DU JAPON 日本語教室受講生との交流をつうじた弘前市物産、弘前観光、留学等に関するインタビュー、モンテーニュ大学日本語授業サポートを通じた交流、日本情報発信拠点（日本の工芸品・雑貨販売、出版社、文化講座、日本語講座を展開）である Maison du Japon のショップ内視察およびオーナー進藤夫妻との会談等を実施した。

それらをつうじて、参加学生は現地の人から関心が寄せられる分野、ツーリストのニーズ、弘前（青森県）に応用できる施策などを考察できる材料を獲得できた。また、帰国後の学習意欲の飛躍的な向上（SNS を通じた交流が継続し交換学習を行っている）も見られている。シティプロモーション、留学については発信の継続と交流の深まりにより弘前旅行・弘前留学への関心が高くなり、複数名の旅行予定者を迎える予定となった。弘前市物産については、こぎん刺しのフランスでの販路開拓に関して、他の物産での展開についてもヒントとなりうる、現地のプロならではの貴重な指摘と助言をオーナー夫妻より得ることができ、企業人との協働プログラムならではの成果を感じることができた。

取材成果については、来年度 9 月発行予定の「フランス直送便」3 号を楽しみにしたい。

https://www.facebook.com/pg/Place-de-la-Francophonie-251112538270169/photos/?tab=album&album_id=1164302126951201
https://www.facebook.com/pg/Place-de-la-Francophonie-251112538270169/photos/?tab=album&album_id=1164380623610018



参与観察報告

人文社会科学部 准教授

小野寺 進

【期間 2016年10月20日～10月28日】

・10月20日（木曜日）青森空港→東京・羽田空港→パリ・シャルルドゴール空港→(TGVにて)ボルドー着

・10月21日（金曜日）

ボルドー市中心街にある「日本館」(Maison du Japon)にて、翌日22日（土曜日）開催のイベントへ向けて、学生主体による展示準備を行った。事前に展示スペースについて情報を得ていたものの、実際にポスターや展示物、ワークショップの設営など、予想以上に時間を要した。前日深夜の到着だったにも関わらず、午前中から活動を開始し、精力的に準備に携わったことは、学生のイベントを成功させようとする意識の表れである。

・10月22日（土曜日）

午前11時から行われたイベントでは、三味線演奏が急遽中止にはなったが、こぎん刺し、津軽塗、ねふた、さらには弘前の紹介をポスターや映像を通して展示に加え、こぎん刺しのワークショップの開催により、多数の来場者を迎えた。積極的な展示説明と、アンケート調査やワークショップの補助などを通じて、弘前市のプロモーション活動に大いに貢献したことは学生にとって大きな成果と言える。

・10月23日（日曜日）

午前中から夕方にかけて、アキテーヌ博物館にてボルドーの歴史と地理とを学び、それを体験する意味で、サンタンドレ大聖堂を起点として、ボルドーの街歩きを通じて歴史の重みを体験した。

・10月24日（月曜日）

ボルドーに誕生したミュージアム Cité du Vin で、世界のワインの歴史と文化に触れ、その後、ボルドー・モンテーニュ大学にて「大八島」の学生と交流した。積極的な活動で盛り上がった学生たちのフランス語と日本語を交えての交流は、ボルドーの学生たちの弘前への留学の橋渡しとなるかもしれない。

・10月25日（火曜日）

ボルドー郊外にあるリゾート地 Arcachon にて、ツーリズムを文化と産業の側面から学び、その体験を弘前市の観光産業や次年度開催予定の「マルシェ」で活かせるように感じたようである。

・10月26日（水曜日）

ボルドー・モンテーニュ大学の日本語クラスにおいて、学生たちは授業に参加し、日本語を学ぶ学生たちの補助を行った。学生たちは日本語の授業のレベルの高さに驚くと共に、言語の重要性を再認識したようである。そこでも学生との交流があり、その後の時間を、現地の学生たちと過ごし、有意義な国際交流を体験できたようである。

- ・10月27日（木曜日）
ボルドー空港→パリ・シャルルドゴール空港→
- ・10月28日（金曜日）
東京・羽田空港→青森空港

総括

かなり厳しいスケジュールであったにもかかわらず、PBLに参加した学生たちが、体調を崩すこともなく、予定通りのイベントや国際交流を積極的に行うことができたことは、今後の社会人生活においても大きな体験として生かすことができるであろう。また、言語（言葉）の大切さや、文化を学ぶことや自国の文化を伝えることの難しさも実感できたようである。今回の活動で、弘前市を訪れたいと考えているフランス人がいたことは、学生の弘前市のプロモーションの大きな成果といっても過言ではないであろう。

→次ページ：参加学生による実施報告書

学生市民等協働プログラム

「弘前×ボルドー」プロジェクト：学生企業人協働シティ・プロモーション事業 実施報告書

弘前大学人文学部2年

15H1089 野呂愛華

1. PBLにおける事前活動（-10月21日）

①目標：

様々なツールを用いて、五感すべてに訴えかける形で弘前の魅力を伝えるために、日本でできる最大限の準備を行う。

②成果：

今回は弘前の魅力を伝えるために、様々なツールを用意することができた。そのため、現地の人に「本物」を見てもらうことができたように思う。日本館での展示の準備の際は地下の展示会場に降りてくる際に目に映る光景に気を配った。日本らしくインパクトのあるものを、と考えた結果、弘前の代名詞であるねふた絵やこぎん刺しを持ってきたことによって展示にメリハリを出すことができた。また、展示の説明などをフランス語に訳す際にはチューターを務める留学生たちの協力を得ることができ、展示の準備だけでなく、現地に赴く前にフランス語を話す練習の機会にもなった。

③課題：

会場の間取りや昨年の様子を把握していなかったため、探し探りの作業になってしまった。把握していればもっと迅速に準備ができただろう。また、展示物の説明文はあるのに見出しがないなど、初歩的なミスもあった。

2. 日本館での活動（10月22日）

①目標：

準備したツールを用いて、五感すべてに訴えかける形で弘前の魅力を現地の人に伝え、アンケートやインタビューを通して感想や反応を調査する。また、フランス語を用いた現地の人との積極的な個々の文化交流をする。

②成果：

準備の段階で会場のレイアウトや展示の配置などをメンバー全員で試行錯誤したため、展示会に来てくださった人の動線がうまく確保できたことによって、私たちも動きやすく、一つのブースに長くいる人を見つけてインタビューできたり、会場内を見回すだけで現地の人に興味を持っているものがどれなのかを知ったりすることができた。また、様々なツールということで展示をするだけではなく、今回動画によるシティプロモーションを多く行ったが、立ち止まって観ていく方が多く非常に効果的であったように思う。こぎん刺しのワークショップでは当日参加の方もたくさんいらっしやって、弘前の伝統工芸品に触れてもらいつ

つ、個の文化交流も行うことができた。日本に興味のある方が非常に多いため、日本語で話してくれる方がたくさんいた。現地の人はそのだけでなく、私たちのフランス語に優しく丁寧に耳を傾けて弘前、そして、日本の文化について知ろうとしてくれていた。日本への情熱を感じ心が震えた。

③課題：

展示物に関してのある程度の説明ができたり、簡単な質問には答えられるくらいの知識量を持っていることが大切だと感じた。知識はあるのにそれをフランス語に訳す力がなかったり、そもそも地元弘前のことなのに現地の人からの鋭い質問には知識がなくて答えられなかったりと悔しい思いをした。もっと内容の濃いものにしていくためにその点を改善したい。

3. 街歩き（10月23日、10月25日）

I. ボルドー市街地（10月23日）

①目標：

街歩きを通してフランスの歴史を知る。常に日本との比較の視点を持ちながら行動する。

②成果：

まず立ち寄ったのはサンタンドレ大聖堂横にあるマルシェだった。私たちは自らの企画・運営で今年9月に「フランス日和～マルシェ2016」というイベントを開催した。本場のマルシェを体験し、来年につなげられるヒントを得ることができた。次に、アキテーヌ地方博物館においてボルドーの歴史を学んだ。「この頃日本は…」と比較しながら見たことで、歩んできた歴史の違いを知ることができたし、ボルドーの歴史を学んだことでこれからのアプローチの仕方にも生かせると思った。ボルドー市街地のフィールドワークでは町の様子から直接的に歴史を感じ取ることができた。

③課題：

街歩きは先生方の後をついていくばかりであり主体的な行動ができなかった。前もって行きたい場所を調べておいて、行く場所を学生の側からも提案したらよかったのではないかと思った。

II. アルカッション

①目標：

観光地を街歩きすることで、弘前における観光のヒントを得る。

②成果：

青森県にも海があるため港町というとたくさんあるが、雰囲気は全く異なった。市単位のプロモーションをするにあたって県単位のプロモーションも非常に重要だと思うため、県内の港町の観光におけるヒントを得られたと思う。

③課題：

弘前市の観光における直接的なヒントを得たわけではない。アルカッションで目にしたものを自分なりに消化した上で、弘前の観光業にも役立てられるような策を自分たちで考える必要がある。

4. Cité du Vin (ワイン博物館) 視察 (10月24日)

①目標:

ボルドーの代名詞であるワインという視点からボルドーを考えるためにCité du Vinでワインの歴史を学ぶ。

②成果:

ワインの奥深さを学んだ。文化的側面、宗教的側面、恋愛や文学の分野でもその存在感を發揮するワイン。ワインの持つ様々な顔には驚きと感動を覚えた。

③課題:

今年の6月に開館したばかりのCité du Vin。直送便を發行するにあたって、Cité du Vinの魅力、ひいてはワインの魅力について感じ取ったものをしっかり記事にまとめることが課題。

5. 人的交流 (10月25日、10月26日)

I. 日本館において (10月25日)

①目標:

相手が日本語を学んでいるからといってそれに甘んじず、積極的にフランス語を使って話すことを心掛ける。また、伝えようと思う気持ちや話したいという意思を常に持ち、それが相手にも伝わるような姿勢で交流する。また、弘前のインバウンドにつながるようなより詳しいアンケートを取る。

②成果:

日本語習得の期間の目安が分かった。「1か月でこれだけ話せるようになるのか」とか「すでにこんなに難しい熟語を知ってるんだ」など、新鮮な驚きがあった。また、質疑応答では日本語会話教室の受講生のみなさんが積極的に様々な質問をしてくれたので、日本の何に興味があるのか調査することもできた。

③課題:

日本語会話教室の受講生のみなさんと会話してみて、自分は1年以上もフランス語に触れあっているのに語彙も文法もまったく定着しておらず先生方に頼りきってしまったのが反省すべき点だと思う。意気込んで臨んだのに話すごとに自信を失い、伝えようと思う気持ちや話したいという意思を持ってはいたものの、それが相手に伝わっていたとは思えない。せっかくあのようなすばらしい機会を設けていただいているので、それを無駄にしないようにフランス語の能力をもっとミニ身につけたいと思った。

II. ボルドー・モンテーニュ大学において (10月26日)

①目標:

相手が日本語を学んでいるからといってそれに甘んじず、積極的にフランス語を使って話すことを心掛ける。また、伝えようと思う気持ちや話したいという意思を常に持ち、それが相手にも伝わるような姿勢で交流する。

②成果：

ボルドー・モンテーニュ大学の日本語の授業に参加した。外国の方が受ける日本語の授業は初めての体験だった。プリントに基づいて授業が進められていたが、これがフランス語の授業だったらと置き換えてみると、難易度の高い授業だと思った。しかし、履修する学生たちは積極的に手を挙げて発言したり、先生や私たちに質問をしたりと終始前のめりの姿勢で授業に臨んでいた。この姿勢こそが多言語習得に必要不可欠なのだと感じた。また、ボルドー・モンテーニュ大学にある日本語サークル「大八島」にも訪れた。温かい歓迎や私たちが持ってきたお土産に興味津々なところから日本を愛してくれていると感じた。一緒にごきん刺しをしたり、弘前の文化に関する細やかなアンケート、およびインタビューを行うこともできた。出会った彼らとは今もSNSでの交流が続いている。

③課題：

ここでもやはり、自分のフランス語力の弱さを感じた。彼らの日本語に頼ってばかりだった。ボルドー・モンテーニュ大学の日本語の授業は難しいが学生は皆、頑張っについている。その姿が焼きついている今、フランス語学習への熱の入れ方を改めなくてはならないと思った。

6. PBL全体の感想など

PBLでは弘前の魅力を伝え弘前へのインバウンドを狙うことと、言語交流を特に念頭に置いて臨んだ。日本館での展示では弘前の魅力を伝えられたし、日本語教室やボルドー・モンテーニュ大学という言語学習の場においてはもちろん、ボルドー滞在中の毎日においても言語交流がなされたと思う。しかし、前述したように成果と同時にまだまだ課題がある。そこを見つめ直すという意味で海外PBLはまだ終わっていないように思う。

学生市民等協働プログラム

「弘前×ボルドー」プロジェクト：学生企業人協働シティ・プロモーション事業 実施報告書

弘前大学人文学部 2年
15H1106 山内 まどか

1. 海外 PBL における事前活動

①目標：

10月22日の日本館で行われるイベントへ向けて、装飾の準備やワークショップの練習を行う。

②成果：

ワークショップとなるこぎん刺しについてはこぎん研究所の成田さんに教えてもらい、こぎんの刺し方をフランス語で説明するというイメージをもつことができた。また、留学生の助力により、市役所から頂いた展示用のポスターやパンフレットにフランス語の説明を加える作業ができた。さらに、メンバーが自宅にある弘前の工芸品や弘前とゆかりのある物産を持参したおかげで、充実した展示内容になった。

③課題：

9月のマルシェのための作業に専念していたため、準備期間が短かった。また、イベントの全体的なイメージが強く持てなかったため、看板や説明のプリントを作る作業を当日の朝まで行っていた。今回は社会人の方も同行してくださるということで頼りすぎていた箇所もあったと思われる。時期的に難しいかもしれないが、9月後半から出発するまでの間に少しでも今年のイベントの様子を探るなどして自発的に準備をするべきであると感じる。

2. 日本館でのイベント

①目標：

自分の担当するスペースだけでなく、全体に責任をもつ。また、来ていただいたお客様にアンケートや紹介したいと思っているものを積極的に伝えられるようフランス語を話す。

②成果：

バカンスであまり人が来ないと思っていたが、日本や日本語に興味のある人々にたくさん来ていただいた。ワークショップも定員を超える人数で、メンバーそれぞれがこぎん刺しを通してボルドーの人々を交流できた。また紙媒体のアンケートだけでなく、シールを貼ってもらったり直接話をしたりして、イベントに関する感想やボルドーの情報を得ることができた。

③課題：

動画やポスター、絵に頼りすぎて自分たちが口で説明した内容が薄かった。また、ワークショップにスタッフが集中しすぎて、他のブースが疎かになっていた。スタッフの人数が少なく、さらにフランス語も教科書上の会話ができたとしても、いざ自由な会話をするとできなくなるので、事前に自分たちがどのように行動すべきかを全体で確認できれば、より満足のいくイベントになっていたと思う。

3. ボルドー市街調査

①目標：

街歩きを通してボルドーならではの観光面の特徴を見極める。フランス語の簡単な挨拶などは積極的に使っていく。その他お願いするときの表現など調べたものを活用して会話をする。

②成果：

サン・タンドレ大聖堂の広場でマルシェを見学できた。自分たちが行っているマルシェによりフランスの要素を取り入れられるように注意深く観察できた。サン・タンドレ大聖堂の内部も見学することができ、フランスにおける宗教と人々の根強い関係性を感じた。

また、アキテーヌ地方博物館ではボルドーを中心としたフランスの歴史について触れることができた。青森県立郷土館や弘前市立博物館のように古代の歴史から現代までの人々の生活が紹介されており、現地では体験できない歴史を感じた。

サント・カトリーヌ通りを中心とした街歩きでは、イベントでお世話になった日本館の進藤さんから頂いたボルドーの本を元に旧市街を歩いた。偶然会った夫婦の方や大学の教授であるという男性に助けられながらボルドーという街がどのような成り立ちを経たのかを知ることができた。

③課題：

当日の予定がその日に決まった。また、街歩きも学生ではなく先生に着いて行くという形になったので、生徒が事前に調査をして赴く場所を決めて調査するという形であればより自主的な活動ができたと感じた。

4. Cité du Vin の視察と「大八島」との交流

①目標：

有名なフランスのワインに関わる知識を身に付けて、弘前のシティプロモーションに役立てられないか探る。日本語を学ぶボルドー大学モンテーニュ校の方々と交流を通して第二言語について深く考える。

②成果：

今年6月にできたばかりのワインの博物館 Cité du Vin の取材では、フランスや世界においてワインがどのように扱われているかを体験しながら調査した。フランス語だけ

でなく英語やスペイン語、中国語や日本語などの説明があったり、訪れた人々に体験させたりと新しい観光を目指した博物館だった。弘前にも博物館はあるが *Cité du Vin* のような全体が体験型の博物館はないように思われるので、ねぶたなどを題材にして取り入れてみてもよいのではないかを感じた。

ボルドー大学では大八島のメンバーと交流を行った。日本館でのイベントのアンケートを再度取ったり、こぎん刺しのミニワークショップを開催したりした。その間メンバーの皆さんと弘前の紹介やボルドーの話をし、より年が近い学生の目線で日本語や弘前がどう感じられているのかを探ることができた。

③課題：

大八島のメンバーは1年やそれより少ない年月だったり、独学で日本語を勉強して簡単な会話できるレベルであったことに対し、自分たちは2年間フランス語を勉強しているはずなのに辞書を使わなければ話せなかったり英語に頼ってしまう場面があった。日常のフランス語習得への意欲をさらに高める必要がある。

5. 観光地視察と日本館での日本語教室取材

①目標：

ボルドー中心街から離れた *Arcachon* を赴いて弘前の観光面で生かせるものを探る。日本館での日本語教室への取材を通して日本語話者との交流を図る。

②成果：

Arcachon は弘前から見た鱒ヶ沢や深浦のような場所で世界各地から多くの観光客が訪れている。歴史的な建物や商店だけでなく、個人の住宅も *Arcachon* ならではの建築技術が生かされており、観光客から地元の人まで土地の歴史に触れることができるように感じた。*Arcachon* での観光は弘前または青森県の観光と関連付けて考えるいい機会になった。

日本館での日本語教室取材では日本や日本語への興味がある人たちと交流することができた。日本語話者との交流は日本語を母語としてフランス語を勉強している自分にとって良い刺激になった。

③課題：

日本語教室では緊張のせいもあって思うようにフランス語を使うことができなかった。ボルドー大学でも感じたが、フランス語の予習が不十分に感じた。

6. ボルドー大学授業体験

①目標：

ボルドーでどのように日本語が勉強されているかを調査し、日本でのフランス語の勉強に生かせるようにする。

②成果：

作文の授業を体験したが、受講生の日本語の語彙力や活用力に驚かされた。人口の推移を考えたり自分の国を紹介する文章を作ったりと問題のレベルが高いように思えたがほとんどの生徒が真剣に取り組んでいた。

③課題：

手伝いとしてある生徒についたが、ほぼ手伝うことなく授業が終わった。仮に逆の立場だったら質問攻めにしてしまうと想像した。授業ということであまり交流はできなかったが海外の大学の授業に参加できたことは貴重な経験であった。

7. 自己評価

①事前活動：

マルシェのことがあって時間がなかったことに加えて4人という少ないメンバーではあったが担当を割り振り自分の仕事は何とか努力してできた。一方印刷物など細かいところまで確認ができていなかったため当日の朝まで作業を行うことになってしまったので余裕をもって臨むべきであった。

②イベント：

最初はフランス語を使って交流することに不安があったが来てくれた人たちがとても友好的だったため楽しんでフランス語を使うことができた。弘前の紹介もできるだけ魅力が伝わるように努力して行った。

③取材活動：

取材活動では個人的に辞書や英語を使わないようにした。また、常に弘前と比べたり弘前のプロモーションに生かせるものがないか調査するという意識をもって海外 PBL に臨んだ。しかし、ボルドーで取材・調査したことのすべてを理解できてはいなかったように感じる。

8. 海外 PBL への感想

出発前や出発後もその日の予定が必ずしも決まっていたわけではなかったので自分がすべきことが曖昧に進んだこと、チーム内での情報共有ができていなかったため現地に出会った人々に迷惑を変えてしまった場面があったこと、社会人の方や先生に頼りすぎていることが心残りである。これから社会人になっていく過程で計画性や自主性を培っていく必要があると感じる。しかしイベントの成功や日を追うごとに日本語を学ぶ人々との交流が増え、帰国後はフランス語習得へ対する意識が高まった。外国語というだけでフランス語の講義を受けていても使うことに抵抗感があったが海外 PBL を通してなくすことができた。短い間だったが充実した海外経験であったと感じる。今回得た知識を弘前の観光に生かして、発信していきたい。

学生市民等協働プログラム

「弘前×ボルドー」プロジェクト：学生企業人協働シティ・プロモーション事業 実施報告書

弘前大学人文学部 2年

15H1109 山口 風太

1.PBLにおける事前活動

①目標：

日本館(Maison de Japon)でのイベント実施に向けた準備を行う。

②成果：

アンケートの作成を担当し、メンバー(PBL対象学生4人)と話し合い、項目・質問内容を決定した。項目・質問内容をフランス語に翻訳し、ボルドーからの留学生・熊野准教授による添削を受け、アンケートを完成させることができた。この一連の過程は、フランス語学習、イベント実施の意識の向上・明確化へ繋がった。

③課題：

学生・准教授共々、多忙を要する授業後期の開始時期に準備が行われたため、時間的制約・メンバーで集まる機会の不足が大きな課題である。また、9月末に「弘前×フランスプロジェクト」の一環として開催したマルシェの影響で、夏季休業の間、PBL関連の動きがほぼ取れなかったことも大いに関係している。

これにより、熊野准教授の提示したアイデアをもとに学生が主体的に動く、という図式が出来上がり、イベントに対する早期での理解の深まり・疑問点の改善を行うことができなかった。これらは、主体性・自発性の欠如、タイムマネジメントの甘さであり、社会人としての意識をもって参加した学生にとって致命的な反省点である。

2.PBLの活動記録(日時はフランスの現地時間に基づく)

・10月21日 日本館にて、翌日のイベントに向け準備を行う。

①成果：

日本館にて、進藤夫妻の尽力のもと、会場レイアウトを学生主体で行うことができた。特に、工芸品の展示のレイアウトは、進藤氏の奥さんの手腕で、見やすく、工芸品の良さをより引き出して参考になることばかりであった。また、各々レイアウトのアイデアを活発にやり取りすることによって、客観的に見やすい展示にすることができた。

②課題：

会場の大きさについて明確な予備知識に乏しく、レイアウトのアイデアを試しては直す、という試行錯誤を繰り返し、タイムロスがあった。また、展示物の見出しなど制作物が足りないことが判明し、事前準備での予測の甘さが露呈した。・10月22日 イベントを実施。

①目標：

来場者へ確実なアンケートの協力を仰ぐ。また展示、こぎん刺しワークショップを通じた市民との交流を積極的に行う。

②成果：

来場者へのアンケートの協力はフランス語で行い、全員にアンケートを配布することができた。また、積極的に挨拶をし、簡単なフランス語、英語、日本語での交流も行うことができた。独学で日本語を学んでいる人、進藤氏の日本語教室に通っている人、ボルドー・モンテニュ大学日本語専攻の学生、日本文化へ興味がある人など、様々な背景を持つ人達と交流することができ、それに伴い、展示だけでは伝わらない弘前の側面も紹介することができた。

③課題：

フランス語力が弱く、伝えたい事が伝えられず相手を困惑させたり、こちら側は消極的になってしまうことがあった。現地の日本語話者の人に協力してもらおうなど、人に恵まれたが、やはり個人での言語能力を高める必要がある。また、当日予定していた津軽三味線の演奏が、アクシデントによりなくなり、津軽三味線の歴史や文化の説明にとどまった。

・10月23日 ボルドーの街歩きを実施。アキテーヌ博物館、サンタンドレ大聖堂へも赴く。

①目標：

世界遺産であるボルドー旧市街を歩き、ボルドーの歴史を街並みから学ぶ。

②成果：

アキテーヌ博物館では、古代から現代にかけてのアキテーヌ地方の歴史的足跡を学ぶことができ、ボルドー旧市街の知識、港町であった歴史の知識も得ることができた。その後、サンタンドレ大聖堂へ赴き、ゴシック様式の建築物自体の芸術的な価値、11世紀から12世紀にかけて建てられた本堂から歴史的価値、また大聖堂としての宗教的価値を学ぶことができた。

ボルドー旧市街の街歩きでは、ヨーロッパでもっとも長い通りであるサント・カトリーヌ通りを経由し、グロス・クロシュを見学し、途中で出会ったボルドー大学の教授であったという方から旧市街についての説明を頂き、モンテスキューの妻の家を見学するなど、ボルドーの世界遺産としての多面的魅力を知ることができた。

③課題：

ボルドーを訪れるのは初めてであったが、ボルドーに対する予備知識の不足で、街歩きでの学びが浅いものになってしまった。

・10月24日 Cité du Vin を視察し、その後ボルドー・モンテーニュ大学へ訪問し日本語サークル「大八島」の学生と交流した。

①目標：

ボルドーをワインの街という側面から捉える。また、日本語を学ぶ学生との交流を通して、弘前を発信するとともになぜ日本語を学ぶのかについて探りたい。

②成果：

Cité du Vin は新しいミュージアムということで、順路が無いことが1つのコンセプトであり、また、多言語に対応したヘッドセットを借りることができ、より容易にワインについての歴史や文化について学ぶことができた。また、ワイン樽の香りを体験できるブースやワイン樽そのものの製造のデモンストレーションなど多角的にワイン文化を捉えることができた。

その後、ボルドー・モンテーニュ大学へ赴き、「大八島」の学生と交流した。その副部長である Alexis と交流・インタビューし、彼からなぜ日本語を学んでいるのか、日本の魅力は何か、など探ることができた。

③課題：

Cité du Vin が膨大な情報量を備えたミュージアムであることを知らずに見学したため、訪れることのできないブースがあり、より効率的な行動が望まれた。

交流では、フランス語力の弱さが目立ち、日本語専攻である彼らに甘んじて日本語を使うことが多々あった。

・10月25日 アルカッションへ赴き、その後進藤氏の日本語教室の生徒と交流した。夜は食事を介し、大八島の学生と交流した。

①目標：

リゾート地として知られるアルカッションで観光について参考になることを探りたい。

②成果：

海辺のリゾート地として知られるアルカッションは、立ち並ぶ家々が建築物として多文化的様式を採用しており、その1つ1つに固有の名前が付けられている。また、海辺としての観光資源を生かした飲食店や物産店が立ち並び、文化的側面・景観的側面・産業的側面からアルカッションのツーリズムを学んだ。

交流では、こちらはフランス語、日本語教室の生徒は日本語を使い、お互いに質問をして交流した。好きな漢字は？という問いかけから、漢字について教えることができた。また、教室の生徒は社会人ということで、言語教育の多様性を感じ、より自分自身の言語モチベーションを高めることができた。

夜は、食事を介し大八島の学生と交流することができた。インタビューなどとは違ってより打ち解けた雰囲気の中、同じ世代、同じ学生同士で日本について感じていること、フランスについて感じていることを話し合うことができた。

③課題：

アルカッションでは、一緒に同行したキャロルの説明に頼るばかりで、質問などを挙げることができず、自分自身のリサーチ不足を感じた。

また交流では、少しながら自分のフランス語が成長していると感じたが、やはり熊野准教授を頼ってしまい、おもにヒアリング能力の低さが目立った。

・10月26日 ボルドー・モンテーニュ大学へ再度赴き、日本語クラスの授業へ参加した。

①成果：

作文のクラスに参加し、学生と交流しながら、作文の補助を行った。日本語クラスの進度は速く、また内容が、自国と日本の人口比較を受けて思うことを書きなさい、のような高度な内容がほぼ日本語で行われていて、言語レベルの高さと授業の難しさを感じ、その授業は2年次の授業であったため、2年次である自分自身の言語モチベーションをさらに高めるきっかけとすることができた。またその後、そのクラスの生徒の1人であるAndyと、フランス語と英語を交えた交流をすることができた。

②課題：

交流が多く、フランス語だけではついていけず、英語を多用してしまった。より深い交流を目指すか、言語的成長を目指すかで迷ってしまい、フランス語で話せることも英語を使用して話してしまった。

3. 海外 PBL への感想

海外 PBL の活動の根幹である弘前を世界へ発信することの一步として、弘前大学と協定校のあるボルドーを訪問したわけであるが、フランスと言ったらパリ、日本と言ったら東京、というような固定観念がプロモーションの邪魔をしているというよりは、地域地域の魅力を発信することの弱さが一番の足枷になっていると感じた。なぜなら、PBLとして、私たちが拙いながらも弘前の魅力を伝えたと、現地の人は予想以上に弘前へ興味を持ってくれたからである。訪日者が過去最大となった今日において、私たちがイベントを通じて持ち帰った成果はより弘前のシティプロモーションへ多様性をもたらすと感じるし、国内における諸地域へのツーリズムの参考例になるのでは、と思う。

学生市民等協働プログラム

「弘前×ボルドー」プロジェクト：学生企業人協働シティ・プロモーション事業
実施報告書

弘前大学人文学部 2年

15H2010 上野由加里

1. PBLにおける事前活動（-10月21日）

①目標：

現地により有意義な情報が得られるように準備をする。

②成果：

弘前大学のフランス人留学生にも協力してもらい、事前にフランス人の視点からアドバイスや意見を聞きながら資料作成ができた。フランス人の傾向を掴むための方法として、アンケートやシールを使った質問シートなどの作成を行った。今回はこぎん刺しがメインということで、あらかじめこぎん刺しの説明やワークショップの体験をした。準備をする中で自分自身もより深く弘前の工芸品やお祭りなどを知ることができた。

③問題点・改善点：

当日の現地の会場や状況のイメージを掴むことに時間がかかり、当日のプログラムを細かく吟味する時間があまりないまま準備に追われる形となってしまった。もう少し余裕を持ち、去年経験した先輩方から詳しく情報を聞き、学生のみinnで話し合う時間をもう少し取ればもっと良かった。

2. 日本館での活動（10月22日）

①目標：

弘前の魅力を伝えつつ、それらについての現地の方々の意見や感想を聞き、傾向を掴む。

②成果：

前日、当日の準備が比較的スムーズに進んだため、フランス人とゆっくり話す時間が多く取れた。日本に興味を持っているフランス人の方々がたくさん来てくださったため、展示している弘前の魅力の一つ一つ説明することもでき、日本のイメージや、日本に求めているものについて多く聞くことができた。例えば、フランス人の多くが、黒い津軽塗りのお皿、紺色に白いこぎん刺しの模様が刺されているマフラー、弘前公園のさくら祭りにとても心が惹

かれたということがわかった。そして展示会に来て感動し、「弘前に今度行きたい。」と書いてくれた方や、朝から夜までずっと書いてくれた人も何人もいた。

③問題点・改善点：

フランス人と話す中で、日本人の自分よりもフランスの方が日本について詳しいということが多くあった。そしてフランス人が多くの日本の魅力を語ってくれたことで、今まで自分が日本の魅力に気づけていなかったことがわかった。日本に帰ってから、もっと日本の魅力について知り、伝えられるようになりたい。

3. 街歩き（10月23日、10月25日）

①目標：

フランスをいろんな分野から知るとともに、日本とフランスの違いを見つける。

②成果：

アキテーヌ博物館では古代から現代までのフランスの歴史を、La Cité du Vin ではワインの歴史や製法を学ぶことができた。サンタンドレ聖堂では基督教のフランス人がどのような空間、雰囲気の中で礼拝を行っているのかを体感することができた。とても清らかで落ち着いた空間だった。そして、街の中で見つけたフランスと日本の違いを歩きながらメモを取ったことで、多くの細かい違いに気がつくことができた。建物や設備の違いもだが、フランス人と日本人の違いも多く見受けられた。例えば歩きスマホをしている人や、早足で急いでいる人があまりおらず、店員さんやすれ違った人などがすぐに挨拶してくれること、話しかけてくれること、カップルが堂々としていることなどである。日本人はフランス人に学ぶことがたくさんあることを実感した。

③課題：

ワインやフランス史についての基礎知識が不足していたため、全体像を掴むことで精一杯になってしまった。事前に全体像を掴んだ上であれば、もう少し深いところまで学ぶことができただろうと思う。

4. フランス人との交流

①目標：

現地の方と積極的に関わり、日本のどんなところに魅力を感じているのかを聞く。

②成果：

日本館の展示イベントや、ボルドーの大学で出会ったフランス人と仲良くなり、たくさん話をすることができた。その中で、日本についてのイメージや、興味を持っていること、

日本に求めているもの、フランス人の習慣や考え方などを知ることができた。それはやはり、ボルドーの人々の気さくで、壁を作らずに、積極的に外国人（私たち）に関わろうとしてくれる優しさのおかげであろうと思う。フランス人は自分たちと異なるものと距離を置こうとするよりも、興味を持って知ろうとする態度が見受けられ、とても嬉しかった。そして人と違うことを恐れず、むしろ自分の個性や自分らしさを大切にしているように思われた。私もフランス人のように、自分と違うものに興味を持ち、みんなと違う自分も大切にできるようになろうと思った。

③問題点・改善点：

フランス語力が不足していたため、フランス語だけでコミュニケーションをとることは難しく、会話は英語・日本語・簡単なフランス語を混ぜてコミュニケーションを取っていた。そのため、フランス語しか話せないフランス人とはあまり会話ができなかったことが少し悔しかった。

5. 海外での集団生活

①目標：

一人だけが苦勞しているような状況ができないように、眼を配る。

②成果：

日本とまったく違う生活習慣や、慣れない集団生活、言語が分からないことによる不便さを通して、海外での集団生活の難しさを実感した。しかしその中で、今まで一緒に活動してきたメンバーの知らなかった一面を知ることができた。さらに海外経験が豊富な先生方と共に生活をしたことで、海外ではどんなことに気をつければいいのか、どんなものが必要なのか、どんな生活スタイルをすれば体調を崩しにくいのかなど、多くのことを教わることができた。これらはこれからも色々なところで応用できる学びになったと思う。

③問題点・改善点：

フランスでの集団生活ではたくさん迷惑をかけてしまった。待ち合わせも場所をフランス語でうまく伝えられず待たせてしまったり、朝食の準備に間に合わなかったり、指示を聞き逃してしまったり、シャワーで待たせてしまったり。そして、日常生活を送る中で困難な場面も多くあった。フランス語力の不足により、メニュー表が読めない、駅がわからない、買い物するだけで緊張することなどが多かった。

6. 海外 PBL 全体を通しての感想

私が今回一番感じたことは、私は日本人なのに日本のことを知らなすぎる、という恥ずかしさだった。フランスの方が私よりも知っている、価値を分かっているということばかりであったためだ。そして日本を離れてフランスへ行ったことで、今まで普通だと思っていた

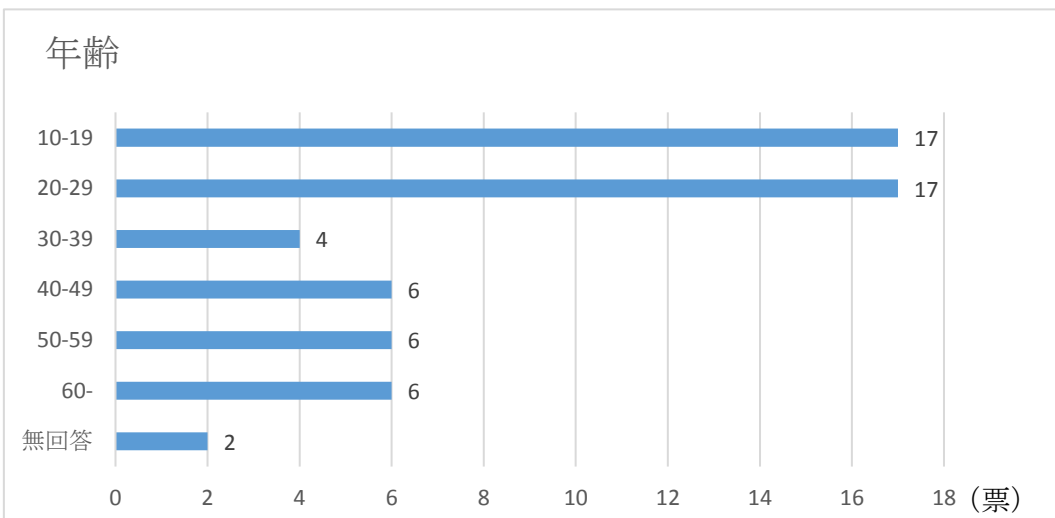
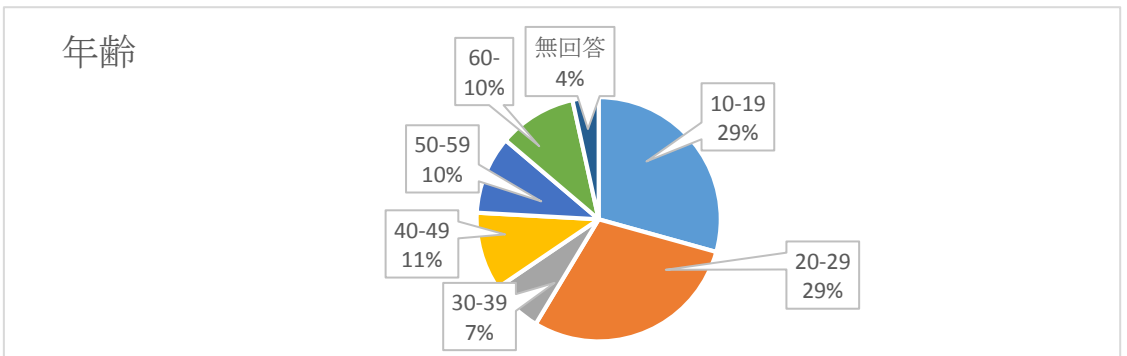
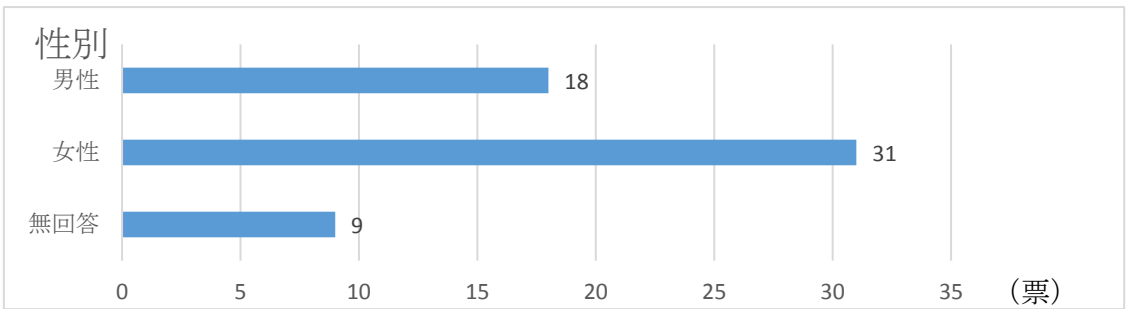
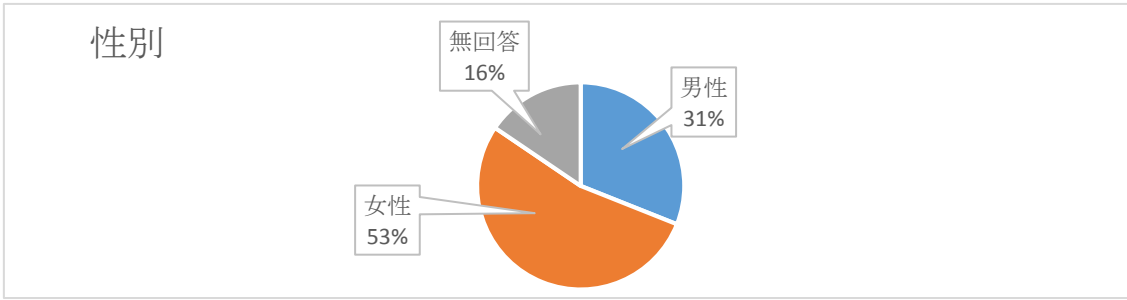
毎朝食べている米や味噌汁などの日本食、温泉、安心感、便利さ、清潔さが日本の文化の一つであったことに気づくことができた。そしてもっと日本の魅力を知りたいという気持ちが芽生えた。しかしそれと同時に、日本人に足りないなと思うものにも気づくことができた。誰にでも挨拶をすること。誰にでもすぐ話しかけるような気軽さ。自分たちと異なったものに興味を持ち、積極的に受け入れる姿勢。周りとは違う自分に誇りを持てる雰囲気作り。女性やお年寄りに優しくする姿勢。日本人はまだまだ多くのことを海外から学ばなければならないのではないかと実感した一週間であった。

日本で勉強しているだけでは気づかない多くのことに気づくことができた今回の海外PBLは、これからの勉学へのモチベーションだけでなく、私の内面的な部分にも多く影響を残してくれた。

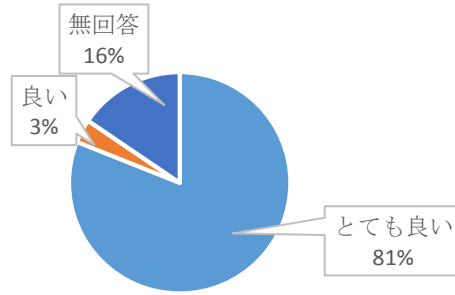
このような機会をくださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



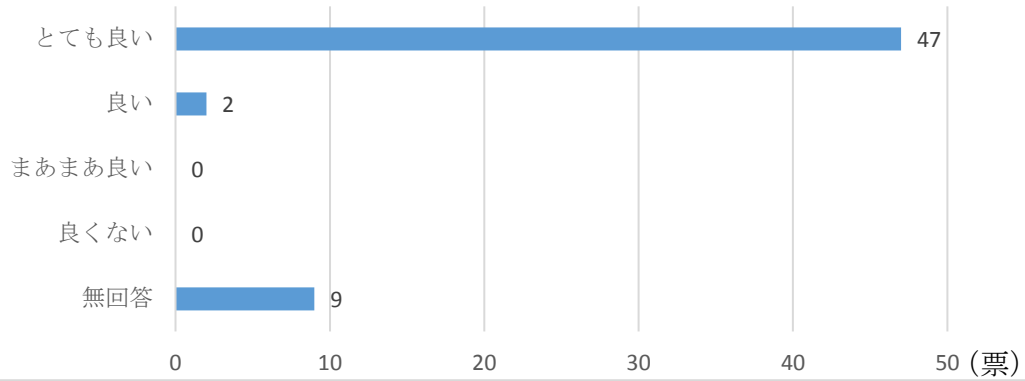
【10/22 イベント実施アンケート集計】



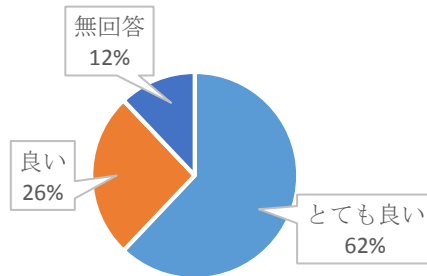
季節の祭り



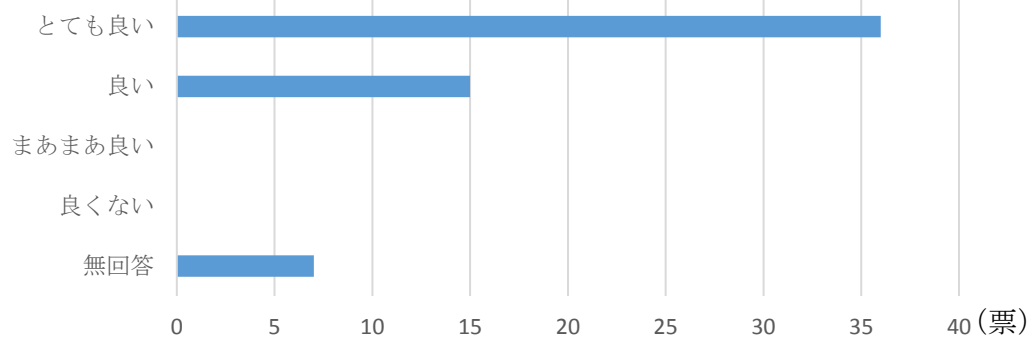
季節の祭り

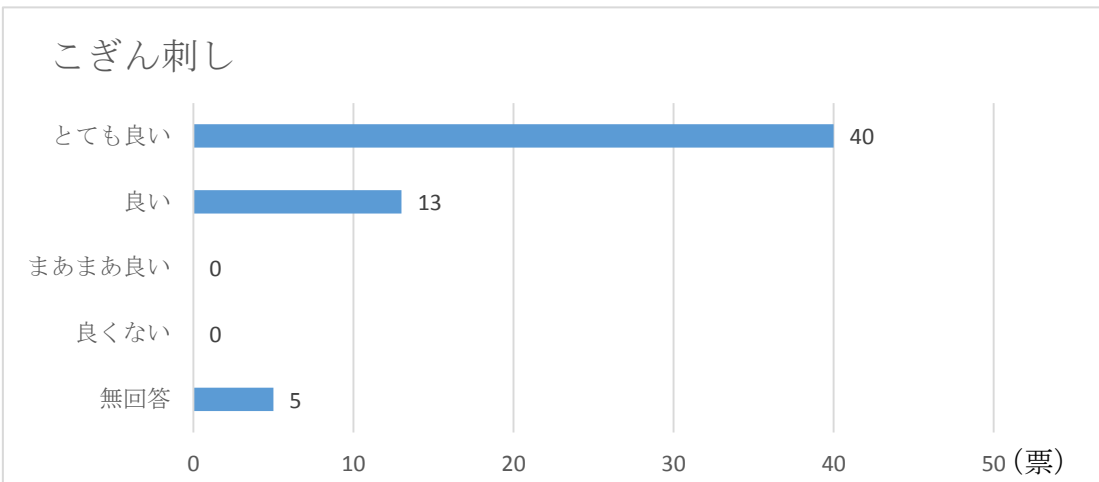
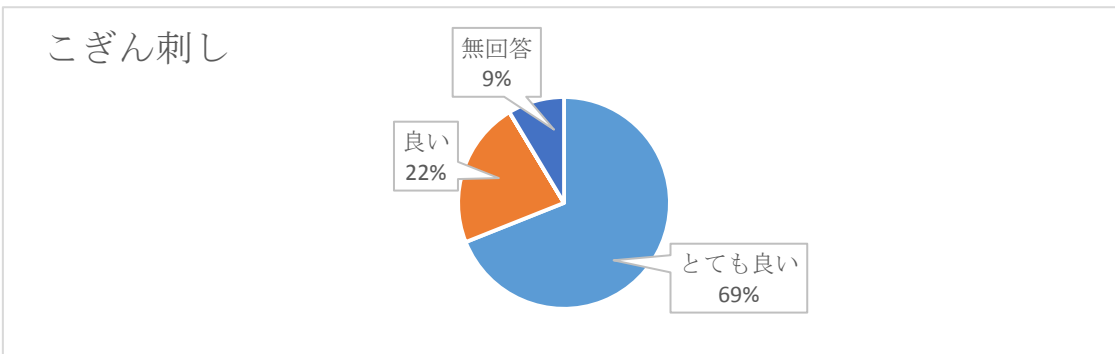
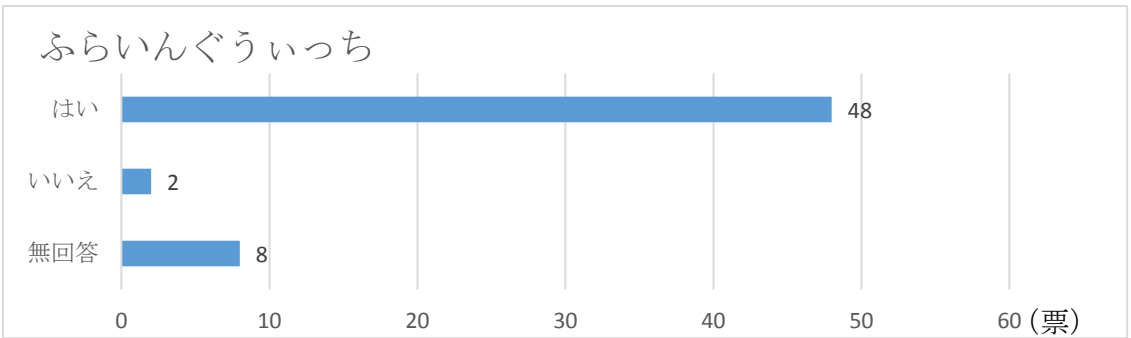
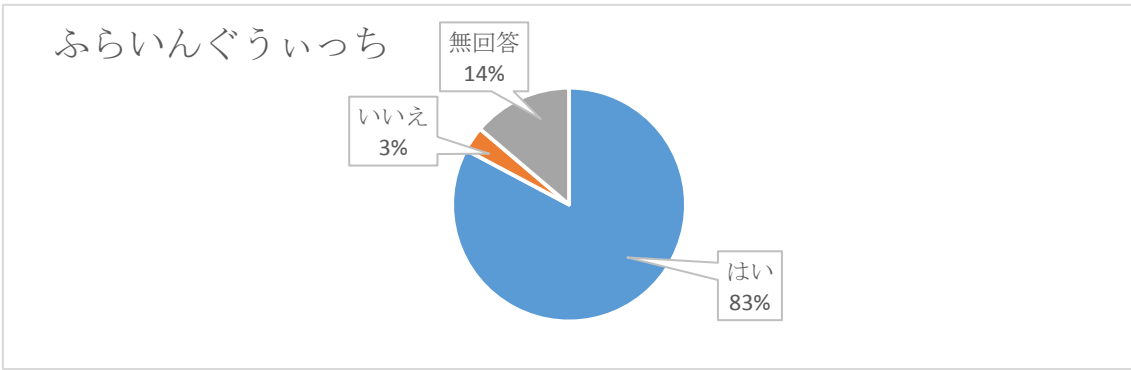


白神山地

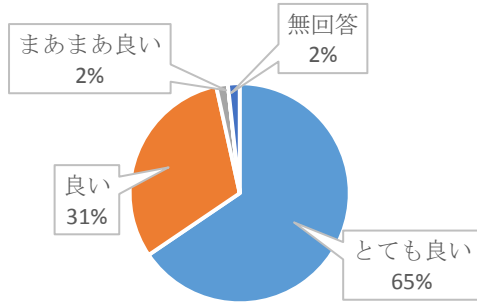


白神山地

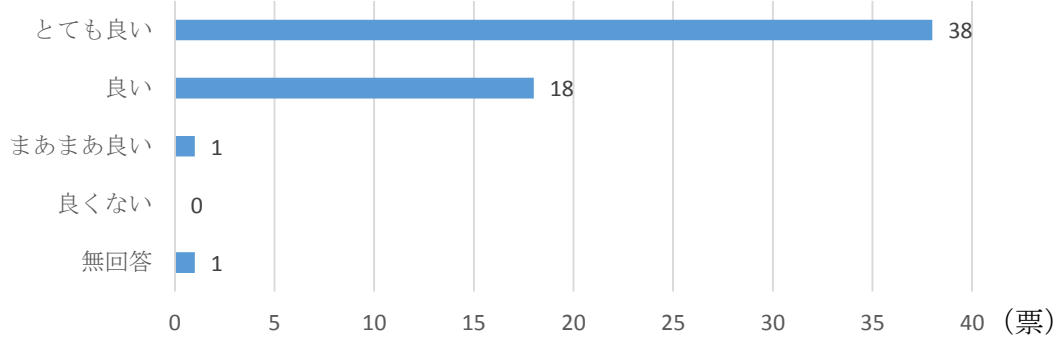




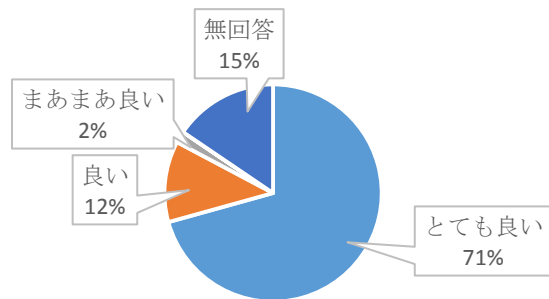
津軽塗



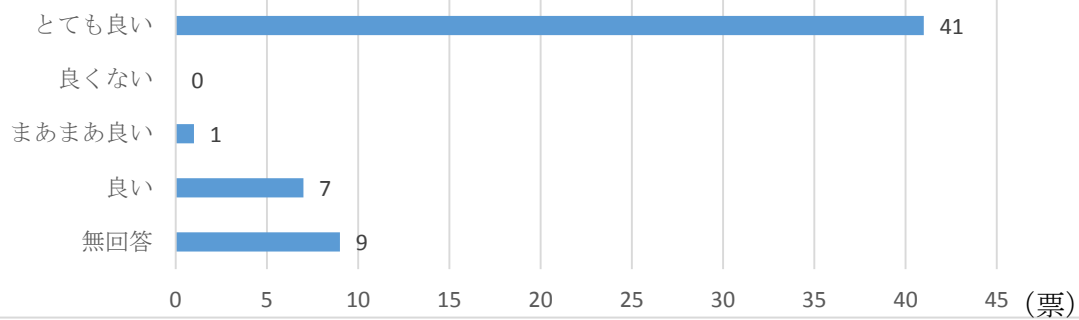
津軽塗

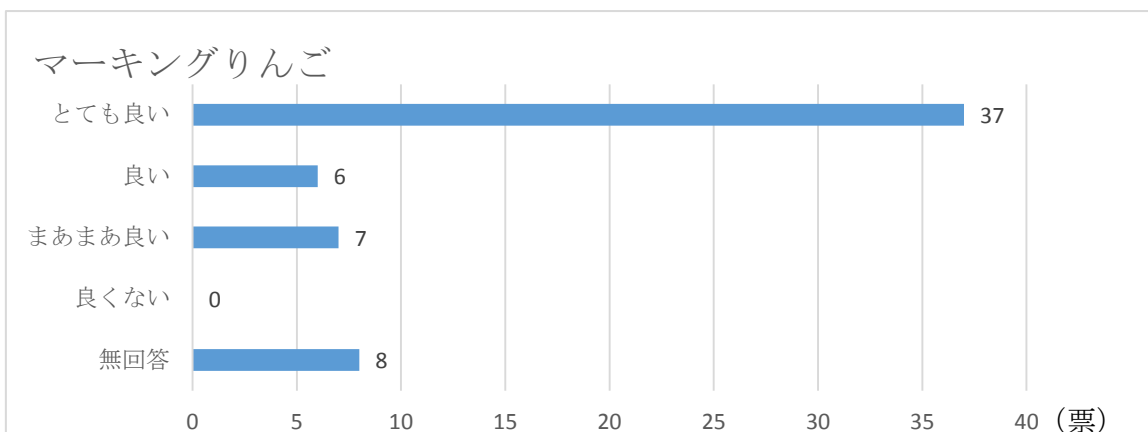
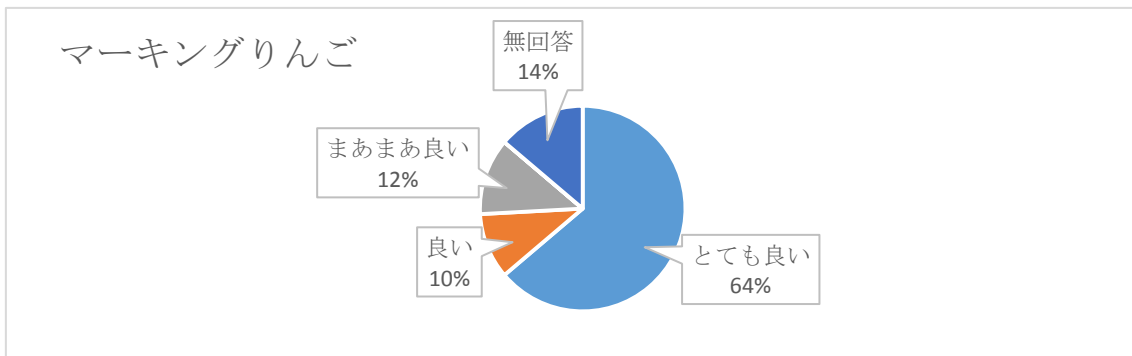


ブナコ



ブナコ





■その他感想・気づいた点（自由記入欄）

とてもたのしかったです！そして、おもしろかったです。ありがとうございます！**Revenez vite!**（すぐまた来て！）（10代女性）

楽しかったし、面白かったです。また見に行きたいです！（10代女性）

C'était super bien!（すごくよかった！）すごく楽しかった！（10代女性）

L'exposition est très intéressante. J'ai beaucoup aimé（展示はとても面白かった。とても気に入りました）（10代女性）

Très Bien.（とても良かった）（10代女性）

Merci pour cette exposition, très enrichissante, avec une ambiance sympathique. Il est juste dommage que le contexte, les liens entre les différents arts, objets ne soient pas plus présent.（雰囲気を感じの良い、有意義な展示をありがとうございました。残念だったことは、こぎんトブナコの関連性が見出せなかったことです。）（10代女性）

面白かったです。弘前はきれいな町ですね。今日まで弘前を知りませんでした。ありがとうございました。（10代女性）

面白いです。そして楽しいです。（10代男性）

面白かった ありがとう！（10代男性）

楽しかった！がんばってください～（10代男性）

J'ai beaucoup aimé l'atelier de Kogin.（こぎん刺しのアトリエがとてもよかった。）ありがとうございます。おつかれさまでした！（20代女性）

ほんとに楽しかった。Oyashima に来てください。(20 代女性)

いいでした。(20 代女性)

Merci beaucoup pour l'atelier. (このアトリエどうもありがとう。)(20 代女性)

Merci! (ありがとう。)(20 代男性)

C'était super! Très intéressant. Je veux aller à Hirosaki. (すばらしかった! とても面白かった。弘前に行きたい。)(20 代男性)

Très amusant! (すごく楽しかった!)(20 代男性)

いいでした。(20 代男性)

ありがとうございます。(20 代 性別無回答)

Très intéressant! (とても面白かった!)(20 代 性別無回答)

Super! Revenez quand vous voulez! (最高! いつでもまた来て下さい!)(30 代男性)

Très bien.(とても良い)(30 代 性別無回答)

Un bel aperçu de le culture à Hirosaki. (弘前の文化のすばらしい概要)(40 代男性)

大変良い取り組みだと思います。頑張ってください。(40 代男性)

C'etait très intéressaint. Merc. (とても面白かった。ありがとう。)(50 代 性別無回答)

Je suis absolument ravis. Je ne connais rien de tout ça. (本当によっとりました。知らないことばかりでした。)(60 歳以上女性)

L'exposition est très intéressante. Très belle région et ville. (展示はとても面白かった。とてもいい地域・まちだと思った。)(60 歳以上女性)

Omoshiroi (60 歳以上女性)

Très intéressant. (とても面白かった。)(男性 年齢無回答)

いいでした。(男性 年齢無回答)

(アンケート質問紙)

ENQUÊTE

SEXE Masculin Féminin

GROUPE D'ÂGE -9 10-19 20-29 30-39 40-49 50-59 60-

① Que pensez-vous des fêtes des quatre saisons ?

Très Bien Bien Assez Bien Pas bien

② Qu'avez-vous pensé du patrimoine Shirakami Sanchi ?

Très Bien Bien Assez Bien Pas bien

③ Après avoir vu "Flying Witch", voudriez-vous venir à Hirosaki ?

Oui Non

④ Avez-vous vu « Moving Project du Château de Hirosaki » ?

Oui Non

 Très Bien Bien Assez Bien Pas bien

⑤ Que pensez-vous de l'art du Kogin ?

Très Bien Bien Assez Bien Pas bien

④ Qu'avez-vous pensé de l'art du Tsugaru-nuri ?

Très Bien Bien Assez Bien Pas bien

⑤ Qu'avez-vous pensé de l'art du Bunako ?

Très Bien Bien Assez Bien Pas bien

⑧ Que pensez-vous des pommes marquées ?

Très Bien Bien Assez Bien Pas bien

⑨ Comment était le concert de Tsugaru-jamisen ?

Très Bien Bien Assez Bien Pas bien

⑩ Quelle musique voudriez-vous entendre joué par un Tsugaru-jamisen ?

(_____)

⑪ Veuillez écrire ici vos avis, ainsi que vos remarques concernant l'exposition.

Merci pour votre coopération !